

# 土浦平和の会

ニュースNO・109 2001年9月

発行 土浦平和の会  
事務局 土浦市神立町2664-2  
TEL 31-9122

## 「終戦記念日を考える市民のつどい」に参加して

中高津 椎名 愛子

猛暑に加えて水不足と異常気象の中、新聞・テレビでは、平和を脅かす問題が次々と報道されています。

昨年来、体調を崩して外出を控えておりましたが、参加して貴重な体験をお聞きし、気分転換したいと出かけました。

会場「まちかど蔵 大徳」には、前列に中学生の姿もあり、たくさんの人々が集まっておりました。

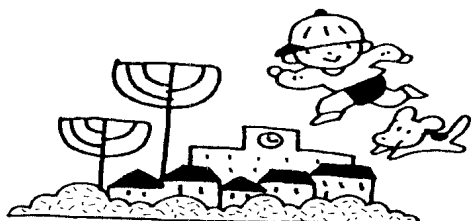
「特攻隊の体験を語る」の大塚嘉孝さんからは特攻隊の訓練の想像を絶する厳しさ、激しさと、その中から選びに選ばれた特攻隊員の話。国のため、愛する人々を守るためとはいえ、命を捨てて敵の中へ突っ込んでいく心境はどんなものだったのでしょうか。又、これを送り出す母親の我が子への惜別の情が溢れているギラギラした眼が忘れられないとの話は身に沁みました。

大塚さんは選ばれて出撃寸前、敵の爆撃で左足を負傷され、戦後、実家に帰ったところ、心ない人々から避難され、肩身が狭く、辛い日々を耐え抜いて今がある。平和は命をかけて守りたいと体験を伝えてくれました。

「まちかど蔵」の館長鶴田さんからは、日本でただ一人、アメリカ本土を爆撃した故藤田信雄氏のことを、ビデオの映像を見ながらの説明ではじめて知りました。戦後、英雄としてアメリカの記念行事に招待された意外性と、その人達との戦いのむなしさ、愚かさをあらためて感じました。藤田氏はその後日米親善に尽くされたとのことでした。

「戦火の中を」の福島水器子さんの話は同じ時代を生き抜いた女性として強い驚きと深い感銘を受けました。吸収に疎開して町役場に就職したところ、防空頭巾を座布団代わりに椅子に敷いたり、配給の食糧をピンハネする職員の腐敗ぶりに憤慨して、3日で辞表を出した勇氣ある行動。一億総動員のあの当時、真実を見極めることさえ難しいのに即行動に移せたのは、それからの懲罰にも似た強制労働に耐えうる力に裏付けされていたからこそと思います。

1年生入学時のこくご「はな、はと、まめ、ます・・・」から「すすめ、すすめ、へいたいすすめ・・・」にかわり、中学時の歴史も「肇国の精神」を1年間徹底的にたたきこまれた富国強兵の教育の中で、完全にマインドコントロールされてしまったあの時代を振り返り、教育の大切さを痛感させられました。今、平和の中にあって自己判断より他と同じが安全と、横並びの風潮が蔓延しています。また、第2次世界大戦を3割くらいの人しか知らないといわれています。これからも、今日のような機会を重ね、より多くの人々に語り伝えて、平和を勝ち取っていきたくと切望しています。若い人の参加を心より頼もしく嬉しく思いました。 おわり



### 行事ごよみ

- 8・21 平和委常任委員会 (水戸平和会館)
- 8・23 平和行進県南実行委員会 (つくば)
- 8・24 平和の会理事会 (1中地区公民館)
- 9・21 平和の会理事会予定 (1中地区公民館)